

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年12月4日

【評価実施概要】

事業所番号	0171200157		
法人名	医療法人社団 恵庭南病院		
事業所名	グループホーム 恵風		
所在地	恵庭市緑町2丁目12番12号 (電話) 0123-34-1922		
評価機関名	(有)ふるさとネットサービス		
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3 北1条ビル3階		
訪問調査日	平成19年11月29日	評価確定日	平成20年1月9日

【情報提供票より】(19年10月22日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 5 月 20 日		
ユニット数	ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 8人, 非常勤 0人, 常勤換算 8人	

(2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	2階建ての	1~2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	37,000 円	その他の経費(月額)	13,200 円
敷金	無		暖房費(11~4月) 7,500円
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	300 円	昼食 400 円
	夕食	300 円	おやつ 100 円
	または1日当たり		円

(4) 利用者の概要(11月29日現在)

利用者人数	9名	男性 4名	女性 5名
要介護1	2名	要介護2	3名
要介護3	3名	要介護4	0
要介護5	1名	要支援2	0
年齢	平均 87歳	最低 80歳	最高 95歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	恵庭南病院
---------	-------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは、家族的な環境のもとで認知症の進行を和らげ仲間とともに楽しく過ごせる場として、平成15年5月に看護師寮を一部改修し開設した。全スタッフは介護適任者として母体病院よりの派遣者であり、看護師である管理者の日常的な健康管理のもとで、理念を根底に個別化に視点をあて尊厳と自立を基本にサービスの提供が行なわれている。利用者全員は、母体病院からの入居者であり、ケアの持続性を配慮し連携が密に行なわれている。利用者の大好きな居場所が居間であり、窓際の椅子に輪になって座り職員とともに共同生活体として大きな家族を作り楽しげに過ごしている。ホームは24時間の医療体制を確保し、利用者にとって安らぎと安心感の持てるホームになっている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>3項目の改善課題は、全職員による新年度にむけてのミーティングの中で取りあげられ、組織的に取り組み全項目が改善された。廊下にテーブルと椅子を置き、居場所を確保し、ケアプランと日々の記録の一体化を図り、注意を必要とする物品は、施錠管理が行なわれている。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価を行なう前に、評価のねらいや活用方法について、全職員に説明し再確認を行ない実施している。各項目について、全職員で話し合ったものを管理者が整理しまとめている。職員は、自己評価を通して意識合わせと振り返りを行ないサービスの質向上につながっている。</p>
	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>平成18年9月に初開催し、それ以降は7回開催している。入居者、活動、職員の状況や利用者の事故、自己、外部評価などについて文書をもとに報告し、評価とともに意見や助言を受けている。運営推進会議で受けた意見などは全職員に報告し、サービスの質向上に活かしている。</p>
重点項目②	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族の来訪は多く、面会時には、利用者のホームにおける生活の様子や心身の状態などを積極的に話し、家族とのコミュニケーションを大切にしている。また、「何かあったら言って下さい」と全職員が対応している。重要事項説明書には、事業所と公的機関の苦情相談の受付窓口を掲げている。</p>
重点項目③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>町内会に加入し、町内会の行事や諸活動には、利用者の心身の状況に応じて積極的に参加している。近隣住民、託児所の幼児、中学生、大学生などが来訪し、利用者本位の交流を行なっている。散歩時の声掛けや挨拶、居間からの窓越しの手振り挨拶は日常化している。利用者は地域の一人として受け入れられている。</p>
重点項目④	

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	平成15年5月、法人及び管理者は「家庭的な雰囲気と地域の中でその人らしく生活することを支えるケア」を目指し、当ホームを開設した。理念の1つに「地域とのふれあい、交流を大切する」と掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員の大多数は開設時よりの勤務者であり、理念の本質を理解し具現した姿を共有しており、日々のチームケアを通して実践化に努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、町内会の行事や諸活動には、利用者の心身の状況に応じて参加している。近隣住民や託児所の幼児、中学生、大学生などが来訪し、利用者本位の交流が行なわれている。散歩時の声掛け、挨拶や居間からの窓越し手振り挨拶は日常化し、地域の一員になりきっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を行なうたびに、ねらいや活用方法を全職員に説明し再確認を行ない実施している。外部評価の結果は、全職員による新年度に向けての話し合いの中で取りあげられ、一緒に考え、必要に応じて小委員会を設け、組織的な検討、改善に取り組んでいる。		

恵庭市 グループホーム 恵風

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	平成18年9月に初開催しそれ以降は7回開催している。入居者、活動、職員の状況や利用者の事故、自己、外部評価などについて報告し、評価とともに意見、助言を受けている。会議の意見などは全職員に報告し、サービスの質向上に活かしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当者とは、運営推進会議や実施指導以外にも入居者状況や運営上の相談など、主に電話により連絡を密にしている。市グループホームネットワーク会にも出席を頂き、今日的課題などについて指導を頂いている。現状に即した協働体制が取れている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族は、月2～3回の来訪者が多く、面会時には、利用者の生活の様子や心身の状況などを積極的に情報提供を行なっている。月初めには請求書に「お便り」を添え来訪状況に応じて手紙も送っている。必要時には電話連絡も行ない、職員の異動は、「お便り」で知らせている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃の家族のコミュニケーションを大切にしているとともに、家族来訪時には「何かあったら言って下さい」と、全職員が対応している。また、重要事項説明書には、事務所と公的機関の苦情相談の受付窓口を掲げている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は、職員の異動による利用者のダメージについて理解している。異動を最小限に抑えるために、母体病院から経験を重視した適性人材が配置されている。事業所では、人間関係を大切に、介護に慣れるまでは、フォローし協力し合える体制作りを行なっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は、出張扱いで出席し、終了後は、レポートを作成し報告会を持ち、研修内容の共有を図っている。また、介護に関する今日的な課題を中心に内部研修や母体病院の院内研修も行なわれ、職員は、年間3~4回の研修の機会が与えられている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	サービスの質向上を目指す目的で、道グループホーム連絡協議会や市グループホームネットワーク会には、管理者が中心に出席しているが、同市ネットワーク会は、来年度よりスタッフの学習会、交流会を取り入れる予定であり、道、市を合わせてスタッフの参加を検討中である。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者は、母体病院からの入居者である。ホームに照会があった時点で、管理者は病院へ訪問調査に伺うとともに、看護師が本人と家族を伴い見学し十分な話し合いのもとで、本人、家族が納得のうえで本格的な利用に移っている。看護師と管理者、職員が本人の立場に立って不安解消の支援を行なっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者の得意な分野で教えを受け学びながら過ごしている。また、職員は、利用者の感情表現を大切にしながら周りの利用者と喜怒哀楽を共有し一緒に過ごす雰囲気作りに努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活における一言や活動中の表情、様子などを利用者の立場に立って考え、カンファレンスで話し合い思いや意向を把握し、共有している。なお、食事やレクリエーションに対する要望も尋ね、意向に添うよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の心身に関する母体病院の情報をもとに、担当者の意見や家族の意向を踏まえ、全職員で意見を出し合い、介護計画を作成している。介護記録の中に「ケアプラン実施状況」の欄を設け、計画内容に即して日常記録をチェックし、介護計画と日々の記録の一体化を図っている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は、3カ月の期間設定をし、見直しを行なっている。また、状態変化や家族の意向などにより見直しが必要になった場合は、職員で話し合いを行ない、現状に即した新たな介護計画を作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	全利用者は、隣接する母体病院からの入居者であり、掛かり付け医の受診は、職員が同行し行なっている。また、病院の休診日に利用できる施設はないか検討が行なわれている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	隣接する母体病院には、1回に2～3名ずつ利用者を職員が同行して受診している。耳鼻科、歯科は月1回の病院への訪問診療日に合わせて職員が同行し受診している。医師の診察をもとに、看護師である管理者が日々の健康管理を支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「重度化した場合に対する指針」を定め、利用開始時に本人、家族に説明し同意を得ている。家族、医師、管理者が連携し状態変化時に段階的に話し合う体制が確立しており、全職員が共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日常的な言葉掛けやトイレ誘導を始め、浴室、トイレに暖簾をさげるなど、日頃からプライバシー保護に注意している。個人情報の取り扱いについて、秘密保持、第三者への提供に関する取り決めに署名、捺印を交わし遵守している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の生活設計は、「めやす」としての流れがあるが、利用者の心身の状態や思いなどを配慮し、利用者の希望に添った個別化に視点をあて、柔軟な支援を行なっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	母体病院の管理栄養士による献立をもとに調理しているが、週に1度は、利用者の好みを取り入れ食事を提供している。利用者は、盛り付けや食器洗いなど力量に応じて参加し、食事は、利用者の中に職員が入り話題を提供しつつ会話を盛りあげ、声掛け、介助を行ない食べる意欲を大切にしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望により毎日入浴ができるように支援している。意志を確認し希望しない時は中止にしているが、最低でも週2回は、入浴ができるように工夫している。全利用者には入浴介助を行ない、入浴剤は日常的に使用している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者は、力量に応じ食事の一連活動や菜園を自己の役割として行ない、回覧板回し、薬の小分けは、職員と一緒にこなしている。レクリエーションは利用者と相談しながら決め、ドライブや季節の行事など利用者本位の楽しみごとの支援を行なっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候や利用者の希望を優先し、菜園活動や散歩を行ない地域住民との触れ合いを大切にしているとともに、週一回の買物や、寄り道などをし、ストレス発散、五感刺激を配慮し支援している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	管理者は、鍵のない自由な暮らしの大切さを理解し、日中帯は、鍵を掛けないケアに取り組んでいる。夜間帯は、防犯のため午後8時～翌朝7時までは施錠している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は、毎年実施している。今年は「夜勤者の初動措置と応援体制及び入居者の避難状態を確認」をねらいに事業所独自で実施している。消火器は全居室と廊下に配置し定期的な点検を行なっている。	○	利用者の生命を守る使命感に立ち避難訓練と設備点検の徹底を期しているが、地域密着型サービスの枠組みを活かし、消防署、警察、地域住民が一体となった協力体制を整備し、さまざまな条件を想定にした実践的な訓練が望まれる。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	母体病院の管理栄養士の献立をもとに、1200～1300カロリーを基準にした栄養バランスのある食事を提供している。水分は1500ccを基準に個別に対応している。いずれも摂取量を記録し、全職員が共有し取り組んでいる。利用者の希望を取り入れた食事や外食も行なっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾る玄関の左側はキッチン、ダイニングルームを兼ねた15帖程の居間である。食卓と椅子が置かれ生活感漂う家庭的な雰囲気である。窓越しに四季折々の季節を感じ、利用者にとって大好きな場所で安らぎの空間になっている。廊下には四季の行事に撮った思い出の写真や利用者の作品を飾っている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	12帖の広い居室には、本人の使い慣れた馴染みの家具や生活雑貨、趣味の品を置き、壁には、思い出の写真や切り絵などを飾り、利用者の好みや生活スタイルに合わせ、その人らしく過ごせる居心地のよい居室になっている。		

※ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。